

7月6日 哲学

高校に入ってすぐのこと。「倫理社会」の授業で様々な思想家について学んだ。それまでいろんな授業を受けたが、初めて「面白いな」と思った。担当していたのは新任のN先生だった。ソクラテスやプラトン、アリストテレスといった哲学者の名前を知ったのもそのときだった。

哲学なんて高尚すぎて、自分には関係のない学問だと思っていた。その先生はいろんな話を交えながら、思想家の人となりや考え方について説明して下さった。中に「タレス」という人物がいた。万物の根源は「水」であると唱えた思想家である。「水がタレス」覚えやすいではないか。途端に好きになった。

タレスにはロバと塩の逸話がある。ロバの背に大量の塩をのせて売りに出かけた際、川を渡ろうとしたところでロバがつかずいた。背に積んだ塩はすべて水に流れてしまった。翌日もロバは同じ事をした。ここでつかずくと重い荷物を運ばなくても良いと学習したのだった。困ったタレスは、その翌日ロバの背に海綿をゆわいつけた。ロバは同じようにつまづいたが、今度は海綿が水を吸って猛烈に重くなった。それからロバはつかずかなくなった。

哲学とはよりよく生きるための知恵である。「なぜ」を突き詰めること。それが哲学である。N先生が教えて下さったのは、豊かに生きるための“基本”だったような気がする。

教頭として赴任したある学校で、N先生との再会を果たした。といっても、目立たなかった私を先生が覚えておられたわけではない。私も「どこかでお目にかかったような……」程度の認識だった。毎日顔を合わせ、あれこれと話を重ねる中で、私の高校時代の話になった。「新任の先生に倫理社会を教わって……」。「それ……。私だ……」。

穏やかな笑顔。高校時代の思い出がよみがえった。

